

共同研究実績報告書（平成 27 年度）

2019年1月21日

1. 研究班名： 一般枠・若手枠
(若手枠は氏名の次に2015年4月1日現在の年齢もご記入ください)

2. 代表者（大学名・職・氏名）
神戸市看護大学 准教授・樫田美雄（外大生協理事）

3. 研究班構成員（大学名・職・氏名）
神戸市外国語大学・教授・岡本崇男（外大生協理事長）
神戸市外国語大学・准教授・山本昭宏（外大生協理事）
神戸市看護大学・准教授・相原洋子（看護大・COC事業＝地（知）の拠点大学による
地方創生推進事業＝担当者）
神戸市看護大学・助教・山下正（看護大・学生委員会生協担当＝当時＝）
神戸市外国語大学消費生活共同組合・専務理事・衛藤昭二

4. 研究テーマ
未来の学園都市
一世代間・異文化間・大学内外間交流の促進による健康で多文化共生的な学園都市的食生活を、生協食堂における「健康栄養相談会のワークショップ化」を通して獲得する一

5. 研究実績の概要（UNITY のHP への掲載 可）

(1) 本研究の背景と成果

この研究の背景と結びついた形でこの研究の成果を、3種、指摘しておきたい。

第一は、学園都市という背景である。神戸市営地下鉄の駅名は「学園都市」であるが、地域住民と大学の結びつきは必ずしも強くはなかった。そういう中で、交流イベントを栄養相談会と食事会という2つの形で打ってある程度交流に先鞭をつけることができたのは、今回の成果であろう。

第二は、生協という背景である。神戸市外国語大学消費生活協同組合は、2つの質の異なる大学（神戸市外国語大学と神戸市看護大学）を職域としているが、その多様性を活かしたビジネスモデルになってなかった。そこを、「栄養相談会と異文化交流ワークショップ」という事業をワンセットで開催するという形で、多様性を活かした交流の形に組み立て、おおむね成功した。これも今回の成果であろう。

第三は、2つの公立の大学という背景である。神戸市外国語大学と神戸市看護大学はいずれも公立であり、今のところいずれも定員割れはしていない。しかし、大学改革にそれゆえ、乗り遅れ気味である。この点を考えるきっかけが必要だった。大学の存続が危機に陥っているわけではない段階で、どれだけ本気で地域貢献のことを考えることができるのか、ということが、この研究の陰の課題であったともいえよう。結果的には、危機におちいっていなくても、地域と生協と大学が、それぞれ win-win-win になる協力の形が見えてきた点で、これも成果が得られたといえることができるだろう。

(2) 本研究の活動

本研究はタイトルにもあるとおり、健康栄養相談会のワークショップ化を通して、学園都市的食生活を形にする文化活動であった。そのため、まず、2016年6月22日に「健康栄養相談会とワークショップ」を開催した（図1は前半の食事内容分析部分、図2はワークショップ部分）。

2016年6月22日「健康栄養相談会&ワークショップ」



図1 2016年6月22日「健康栄養相談会&ワークショップ」の前半の食事内容分析部分

2016年6月22日「健康栄養相談会&ワークショップ」



図2 2016年6月22日「健康栄養相談会とワークショップ」の後半のワークショップ部分

しかし、ワークショップをするだけでは、「交流（異文化交流と異世代交流）」が進まな

かった。そこで、2016年6月29日に、7月3日の「異文化交流&異世代交流食卓会」をにらんだ「留学生&高齢者インタビュー」を実施して、交流の基盤を確保しようとした。

2016年6月29日「留学生&高齢者インタビュー」

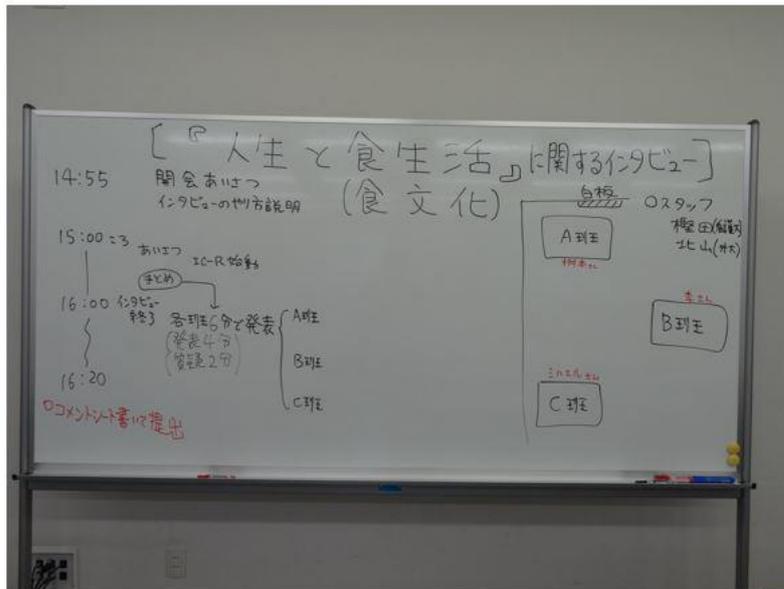


図3 2016年6月29日「留学生&高齢者インタビュー」の班配置図

そして、この2つのイベントを準備イベントとする形で、2016年7月3日に「異文化交流&異世代交流食卓会」を、ユニティの地下1階の和室全室を借り切って開催した。

2016年7月3日「異文化交流食卓会」



ロシアのサラダ
「オリヴィエサラダ」
をロシアからの留学生
が作っている様子

図4 2016年7月3日「異文化交流_異世代交流食卓会」においてロシアのサラダ作成場面

これらのイベントは、いずれも、録音録画されて、そのイベント内会話や相互行為が研究の対象とされた。研究のテーマとしては、オリエンタリズム論や、異文化接触論が採用さ

れ、ほぼ丸一年の研究が各研究員によってなされた。

(3) 本研究の研究発表の記録

研究の学術的成果としては、シンポジウムの開催が1件と、活字になったものが4種である。

まず、シンポジウムについては、『学園都市的食生活のすすめ-健康で多文化共生的な学園都市的食生活を考える-』というタイトルのものを、2017年6月17日に、神戸学園都市のUNITYの2階で開催した(このシンポジウムのチラシファイルは次のWWWサイトで入手可能である<http://kashida-yoshio.com/unity/unity.html>)。登壇者は、以下の7名であった。

樫田 美雄(研究代表者・神戸市看護大学、社会福祉学)
相原 洋子(パネリスト・神戸市看護大学、看護学・地域支援)
山下 正(パネリスト・神戸市看護大学、看護学・国際支援)
片岡 治(パネリスト・市民・2016多文化交流食事会参加者)
廣瀬 周作(パネリスト・神戸市外国語大学学生)
秋谷 直矩(コメンテーター・山口大国際総合科学部・社会学)
北山 明日香(司会・神戸市外国語大学学生)

ついで、活字になったもの4点を紹介する。

まず、全員共著のパンフレットとして、『学園都市的食生活のすすめ』パンフレット(2017)を、2017年2月28日に発行した(このパンフのPDFファイルは以下のWWWサイトで入手可能<http://kashida-yoshio.com/unity/recipe.html>)。これは、本研究の成果を一般に広報するために400部作成したものであり、神戸市外国語大学と神戸市看護大学の両方の生協購買部で無料配布するとともに、関係各方面にも配布した。内容としては、まず「A 料理に興味のある方」向けに、「オリヴィエサラダ」と「創作そうめん」と「ワレーニキ」と「天ぷら」と「豚汁」のレシピをカラー画像付きで掲載した。ついで、「B 留学生との交流に興味のある方」向けに、異文化交流食事に集まってくれたロシア、台湾、中国本土からの3留学生を紹介した。さいごに、「C 世代間交流に興味のある方」向けに、eventに参加した4名の高齢者の方をカラー写真付きで紹介したものである。

さらにもうすこし、学術的な研究実績としては、WEBと紙のハイブリッド雑誌である『現象と秩序』誌の7号(2017年10月刊行)に「多文化異文化交流と学園都市的食生活」という特集を組んで、合計3本の論考を掲載した(紹介文を加えて、4篇。それぞれの書誌事項は下記のとおり)。

樫田美雄2017「多文化異文化交流と学園都市的食生活」、『現象と秩序』7号:1.

樫田美雄・山下正・相原洋子・山本昭宏2017「地域と生協と大学」、『現象と秩序』7号:2-14.

山下正・樫田美雄・相原洋子・山本昭宏2017「健康的な生活のあり方と多文化理解」、『現象と秩序』7号:15-22.

相原洋子・樫田美雄・山下正・山本昭宏2017「世代間交流から考えた健康的な食生活習慣」、『現象と秩序』7号:23-30.

※上記の、『現象と秩序』7号掲載の諸論文のPDFファイルは、以下のWWWサイトで無料公開されている(<http://kashida-yoshio.com/gensho/7gou/7gou.html>)。

(4) 本研究の今後の展望

食生活を軸とした文化交流の研究は、手法の開発がまだ十分されておらず、我々の大量の動画データは、研究手法開発の素材として画期的なものであるともいえよう。今後は、一方で、この素材を用いて研究手法開発を行いながら、もう一方では、実際の研究として、学園

都市的食生活の可能性を探っていくことをしていきたい。

なお、末筆になりますが、この実験的な研究プログラムに可能性を認め、研究費をあたえてくださった、『神戸研究学園都市大学交流推進協議会』様および、研究協力者になって下さった皆様（とりわけ、留学生と高齢者のみなさま）に厚く御礼申し上げます。

書式変更: インデント : 最初の行 : 0 字